

令和3年度 教養学部学校教育学科 学校推薦型選抜（一般）講評

○課題文について

露木和夫『「優しさ」の教育 センス・オブ・ワンダーを子ども達に』を一部改変して引用した。

○設問1 傍線部アで、筆者は「自然を愛する心情」を考えると、「知」と「情」を分離してはいけないと述べています。それはなぜかを筆者の考えにそって二〇〇字以内でまとめなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「知」と「情」についての構造的関係を理解し、課題文中にある文章や語句を適切に使いながら論理的に表現できているものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「知」と「情」の構造的な関係を説明するために必要な文章や語句ではない部分を課題文中から引用したのも散見された。

○設問2 傍線部イで、筆者は「目に見えるものだけに限らず、目には見えない関係や変化、本質や心を求めていくこと」の重要性を述べていますが、あなたはどのように考えますか。課題文を踏まえた上で、自分の体験や見聞をまじえながら六〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文の趣旨を踏まえて、適切な事例を挙げながら、自分の考えを論旨の通った文章で記述できているものに高い評価を与えた。

【講評】

「目には見えない関係や変化、本質や心を求めていくことの大切さ」と、そのことによって生まれる人や生き物などへの共感や優しさについて述べた解答が多かった。他方で、課題文の趣旨にそぐわない事例をあげている解答、強引に教育論に結びつけた解答なども見受けられた。